

デイリー・マーケット・レポート

東京市場デイリー・レビュー／2026年10月9日(金) 発行:ていネコの投資ノート

【速報版】本レポートは2026年10月9日17時台時点の速報版です。株価指数・金利は大引け(15時30分)時点の値、売買代金・売買高は概算値、アジア市場は東京時間の取引時間中の値を用いています。確報で数値が変動する可能性があります。

1. 本日のサマリー

- 日経平均は前日比11円19銭安の6万9030円92銭と小幅3日続落。寄り付きは393円安、9時20分には6万8150円まで892円下げたが、その後は押し目買いが下げ幅をほぼ消し、後場には一時プラス圏へ浮上した。TOPIXは13.35ポイント高の4104.81と3営業日ぶりに反発している。
- 下げの主因は前日の米国市場。米OpenAIの売上高が一部予想を下回るとの報道でAI関連株が売られ、半導体のSOX指数は3.39%安となった。朝方はこの流れが国内の半導体・AI関連に波及したが、原油高が一服し米長期金利が低下したことで、午後は買い戻しが優勢に転じた。
- 物色は幅広かった。プライムでは値上がり1194銘柄・値下がり331銘柄と全体の76.9%が上昇し、33業種中25業種が高い。海運・その他製品・サービスが上昇し、銀行・非鉄金属・小売が下落。指数の小動きと中身の強さが大きく食い違う一日だった。
- 注目はファーストリテイリングとソフトバンクグループ。この2銘柄だけで日経平均を436円押し下げ、アドバンテストと東京エレクトロンによる276円分の押し上げを打ち消した。10月30日のTOPIX構成銘柄入れ替えに伴うリバランス需要も、幅広い銘柄の下支えとして意識された。

2. 主要指標

指 標	水 準	前日比	備 考
日経平均株価	69,030.92円	-11.19円(-0.02%)	小幅3日続落。始値68,648円、安値68,150円
TOPIX	4,104.81	+13.35(+0.33%)	3営業日ぶり反発
東証グロス250	約806	+約11(+1.4%)	小型株にも買い戻し
プライム売買代金	7兆8,454億円	+2,321億円	概算値。10月限SQ算出日で膨らむ
値上がり／値下がり	1,194／331	変わらず27	プライム全体の76.9%が上昇
新発10年国債利回り	3.006%	-0.064%	4営業日ぶり低下。米金利低下が波及
長期国債先物12月限	124円93銭	+58銭	高値125円02銭、安値124円61銭
ドル円	158.20円前後	+0.31円	東京レンジ157.70～158.20円
ユーロ円	177.71円	—	東京レンジ177.00～177.71円
WTI原油11月限	90.76ドル	+2.48ドル(+2.81%)	8日NY終値。ホルムズ海峡封鎖を警戒
NYダウ(8日)	51,231.64	+51.77(+0.10%)	終盤にプラス転換
ナスダック(8日)	27,193.34	-345.35(-1.25%)	SOX指数は-3.39%と大幅安

3. 株式市場

892円安から下げ幅を消した一日

寄り付きは393円安の6万8648円。前日の米ハイテク株安を映して半導体関連に売りが先行し、9時20分には安値6万8150円(892円安)まで下押しした。だが下値では押し目買いが着実に入り、前引けは529円安、後場は14時40分前後に一時プラス圏へ浮上して6万9030円で引けた。前日までの2営業日で1641円下げた反動と、原油価格の上昇一服・米長期金利の低下が支えとなった形だ。3連休を控えて新規の買いは限定的で、高値追いの動きは出なかった。

決算が明暗を分けた個別銘柄

ファーストリテイリングは4.0%安の7万1780円。2026年8月期の営業利益は32%増の7431億円、売上高3.9兆円と5期連続の過去最高で年間配当も500円から850円へ大幅増配したが、今期純利益見通しが3%増の5600億円にとどまり市場予想を下回ったことで売られた。好決算銘柄では、ローツェが今期純利益を98%増の377億円に上方修正しストップ高水準の15.8%高、吉野家ホールディングスも上方修正で大幅高。半面ニデックは外資系証券の投資判断引き下げで6.1%安となった。

25業種が上昇、売られたのは内需と金利敏感

業種別では海運業、その他製品、サービス業が上昇率上位。原油高を背景とした運賃上昇期待で日本郵船や商船三井が買われ、その他製品はバンダイナムコHDや任天堂、サービス業はリクルートHDやペイカレントが押し上げた。下落は8業種にとどまり、銀行業(りそな、みずほ)、非鉄金属(三井金属、古河電工)、小売業(三越伊勢丹、ファーストリテイリング)、ガラス・土石、医薬品、情報・通信、鉄鋼、金属製品が並んだ。銀行株の下落は長期金利の低下、非鉄の下落は中国内需への不安が効いており、金利と中国景気という二つの軸が業種間の明暗を分けた格好である。

売買代金は7兆8454億円の膨らむ

プライムの売買代金は7兆8454億円、売買高は22億9519万株。10月限オプションSQ算出日(SQ値の速報は6万8465円23銭)にあたり、直近5営業日で最大となった。売買代金上位はアドバンテスト約5368億円、キオクシアホールディングス約5357億円、ソフトバンクグループ約3740億円と、AI・半導体関連に資金が集中する構図は変わっていない。この一極集中が崩れるかどうか、物色の広がりを測る目安になる。

4. 本日の主題：値がさ2銘柄が消した「幅広い上昇」

本日の東京市場は「指数は動かなかったが、中身は大きく動いた」一日だった。日経平均は0.02%安とほぼ横ばいだが、TOPIXは0.33%高、プライムの値上がり比率は76.9%、日経平均225銘柄でも値上がり148・値下がり74と上昇が倍である。指数が上がらなかった理由は、株価の高い2銘柄に集約される。

寄与度ではファーストリテイリングが1銘柄で244円33銭、ソフトバンクグループが191円75銭、合計436円を日経平均から差し引いた。押し上げ役はアドバンテスト146円71銭と東京エレクトロン128円94銭の計276円で、差し引き160円のマイナス。本日の小幅安は「市場が弱かった」ことを示すのではなく、値がさ株固有の決算・個別要因が指数に濃く投影された結果にすぎない。

TOPIXの反発には、10月30日に実施されるTOPIX構成銘柄の定期入れ替えも効いている。新規35銘柄を採用し683銘柄が段階的なウエイト縮小(移行措置)の対象となる大規模な見直しで、連動資金のリバランス需要が中小型・バリュー株を含む幅広い買いにつながったとみられる。前日8日に新TOPIX絡みの売りが大型株を押し下げたのと表裏の関係で、月末まで指数要因が需給を歪めやすい。

5. 債券・金利

債券は堅調。長期国債先物12月限は寄付・安値とも124円61銭、高値125円02銭をつけ、前日比58銭高の124円93銭で引けた。新発10年債利回りは3.006%(前日3.070%)と4営業日ぶりに低下した。原油高の一服と好調な米30年債入札で前日の米長期金利が低下した流れを引き継いだ形だ。

年限別では2年1.898%、5年2.332%、20年3.867%とそろって低下し、超長期ほど低下幅が大きいブル・フラット化となった。前日8日の30年債入札は応札倍率約3.88倍・テール16銭と堅調で、超長期の安心感につながっている。本日の入札は国庫短期証券(3カ月)のみ。米国債利回りは2年4.77%、10年5.24%、30年5.62%といずれも低下した。

6. 為替・商品

ドル円は東京時間に157円70銭～158円20銭で推移。仲値158円17銭の後に157円70銭台へ押したが、午後は158円20銭まで上昇して引けた。高市首相は「為替や物価の動向を見て適切な対応をとる」と述べた一方、「金利や為替相場は市場で決まる」とも発言し、介入警戒は和らいだ。ユーロ円は177円71銭まで上昇。金利低下と円安が同時に進んだ点は、株式市場には本来追い風だ。

商品はWTI原油11月限が8日のNY市場で2.48ドル高の90.76ドル。イランのホルムズ海峡封鎖と船舶攻撃が供給不安を高めたが、IEAの戦略備蓄追加放出への言及で上げ幅を縮め、東京時間は91ドル台で一服した。金は4173ドル台。

7. 海外市場の動向

8日の米国市場はまちまち。NYダウは51,231.64ドル(51.77ドル高)と終盤にプラス転換したが、ナスダック総合は27,193.34(345.35ポイント安)、SOX指数は12,623.72(3.39%安)と下落。米OpenAIの売上が予想に届かないとの報道でAI期待が後退しインテルが5.3%安、半面アップルなど内需・ディフェンシブは買われた。

9日のアジア市場は方向感が分かれた。韓国はハングルの日で休場。香港ハンセン指数は東京時間11時台に24,027.78(1.02%高)と反発し、原油高の一服でハイテクや銀行が買い戻された。半面、上海総合指数は3,790.80(0.55%安)と約2カ月半ぶりの安値圏。国慶節連休中の消費の伸び悩みが重しだ。

8. 直近の推移

日付	日経平均	前日比	TOPIX	10年債	売買代金
10/5(月)	69,946.86	+1,637.40	4,145.22	3.085%	7兆7,509億円
10/6(火)	70,683.98	+737.12	4,183.56	3.095%	7兆3,048億円
10/7(水)	70,035.71	-648.27	4,154.11	3.105%	7兆6,713億円
10/8(木)	69,042.11	-993.60	4,091.46	3.070%	7兆6,133億円
10/9(金)	69,030.92	-11.19	4,104.81	3.006%	7兆8,454億円

9. 総括と注目点

本日は強弱材料がほぼ均衡した結果としての「静かな続落」だった。米AI関連株安の下押しに対し、金利低下・原油高一服・円安が支援材料として並び、下値では押し目買いが機能した。注目すべきは、日経平均が動かない間にTOPIXが反発し値上がり銘柄が8割近くに達した点で、相場の重心がAI・半導体の一本足から広い裾野へ戻る兆しがうかがえる。ただし10年債利回り3%前後と原油90ドル台が続く限り、金利上昇への警戒は前提として残る。次の東京市場は12日が休日のため13日(火)が週明けとなる。

■ 米国の9月CPI・PPIと米主要銀行の決算。インフレ指標が上振れすれば米金利が再上昇し、日本の長期金利と値がセグロス株に直接響く。

■ 国内の9月企業物価指数と、本格化する4～9月期決算。引け後に発表された安川電機など設備投資関連のガイダンスが物色の分かれ目だ。

■ 中東情勢と原油価格、および10月30日のTOPIX入れ替えに伴うリバランス需給。14日の5年債入札、20日の20年債入札も通過点となる。

※騰落率・寄与度の合計・グロース250の前日比率などは公表値をもとに筆者算出。東証プライムの売買代金・売買高は大引け時点の概算値で確報で変動しうる。日経平均の日中高値、30年債利回りの当日終値、ユーロ円の前日比は執筆時点で確認できず「―」とした。10年債利回りは10月5～7日が日本相互証券、8～9日がフィスコ配信値で小差がありうる。アジア市場は東京時間中の値。本資料は生成AI(Claude)を用いて公開情報を整理・執筆した。出典：日本経済新聞、株探、フィスコ(財經新聞/Investing.com)、マネクリ、ウエルスアドバイザー、みんかぶ、OANDA証券、Yahoo!ファイナンス、日本相互証券、財務省、Bloomberg、レスポンス。

本資料は公開情報に基づく市況の整理であり、特定の銘柄の売買を推奨するものではありません。投資判断はご自身の責任でお願いいたします。